北越銀行歴史写真館

第六十九国立銀行本店（北越銀行の前身）
＝明治 30 年 12 月新築

第六十九国立銀行は、明治 11 年 12 月 20 日に創業したが、当時の長岡は、北越戊辰戦争の兵火によって、旧藩士は流離し、町民は疲弊した。町並みは荒廃し殆ど見る影もない状態であった。

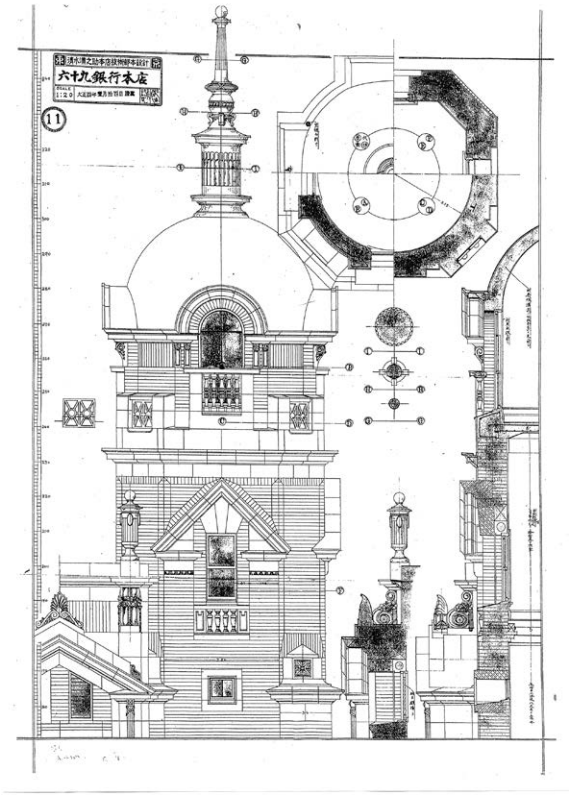
このような惨状にあった長岡を経済面から復興しようと、献身的な努力を傾けた二人の人物があった。

三島億二郎と岸宇吉である。三島は長岡藩士の、岸は長岡商人の代表的な人物である。第六十九国立銀行の創業は、実にこの二人の協力の賜物であった。

第六十九国立銀行が発行した国立銀行紙幣＝明治 12 年６月

長岡市裏二ノ町乙第 927 番地　長岡銀行本店
＝明治 36 年５月新築

1903（明治 36）年５月に新築移転した前身の長岡銀行本店
お祝いとして預金者には湯飲み茶わんを贈った。土蔵造りの堅固な建物で完成は５カ月近く遅れた。

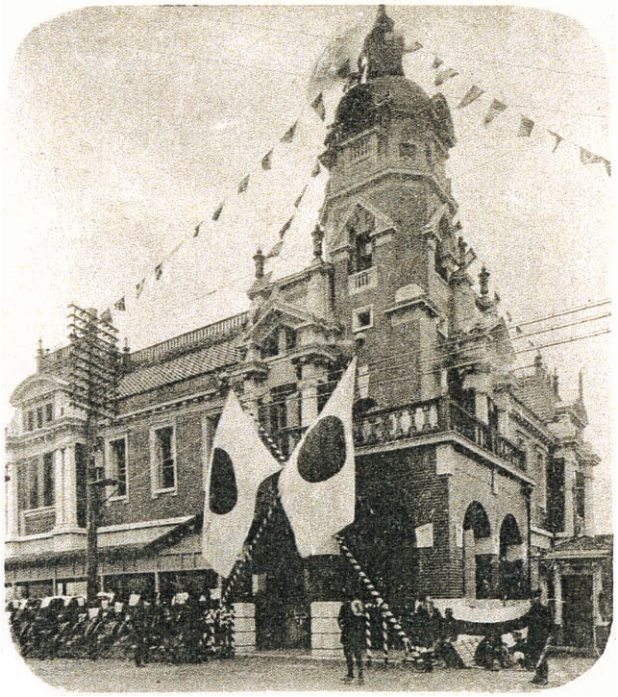


六十九銀行本店の設計図＝塔の部分

六十九銀行の改築を祝いて　渋沢栄一
“梓弓はるの光も長岡に八重咲き匂う山吹の花”

大正６年10月７日の竣工式には渋沢栄一をはじめ、各界の名士約600人が招かれ、塔とモダンな外観が長岡の一名物になった。

この工事は清水組が新潟方面で名を成した名工事であった。その後、清水組は多くの工事を得ることになり、工事をせんとする者は、先ず長岡に来て当行を見学したといわれている。



赤れんが造りに高塔が目を引く六十九銀行本店

大正ロマン漂う昭和初期の大手通り

塔のある建物は長岡市役所本庁舎（旧大和、現・カーネーションプラザの位置）、奥は長岡貯蓄銀行本店（現・北越銀行本店の位置）。手前右は三島億二郎が中心となって創立した長岡会社病院（長岡赤十字病院の前身）

昭和６年新築の長岡貯蓄銀行殿町支店

昭和初期の大雪、左手前は六十九銀行本店＝表町の銀行小路

深尾建築事務所の深尾貞太郎による設計・施行。頑丈な鉄筋コンクリートとシャッターは昭和 20 年 8 月 1 日の長岡空襲の戦火にも耐えた。

昭和 20 年 8 月 1 日、B29 爆撃機 125 機による長岡空襲で焼け野原になった本町・表町地区
塔のある建物は長岡六十九銀行本店。

左：赤煉瓦造りの北越銀行本店（旧六十九銀行）＝昭和 39 年ころの表町通り
右：北越銀行本店営業室＝昭和 36 年

「38 豪雪」の長岡駅前

長岡祭りの長岡市中心街＝昭和 41 年８月

昭和 38 年 4 月から《100 万人の銀行》というスローガンを掲げて知名度の高揚に乗り出し、昭和 38 年 7 月からキャラクター「ホクギン・ホクちゃん」が誕生。40 年 4 月にはホクちゃんの妹として「エッちゃん」が誕生した。

昭和 30 年～ 40 年代の女性行員は、この制服を着用していた。

「ホクギン・ソング」

北越銀行本店の屋上から撮影した大手通り十字路
＝昭和 50 年頃